

＜研究事例の紹介＞

3 里山林に生育する未利用樹種ネズミサシを活用した新たな商品化とその評価

1 目的

里山林に生育する多様な樹種はチップのような単一の用途がほとんどです。それぞれの樹種の特徴を生かした付加価値のより高い用途に活用することで、里山林全体の経済的価値が高める必要があると考えます。当センターでは、県内に生育するネズミサシを活用するために新たな商品化の技術支援を行っています。今回はその最新事例をご紹介します。

2 関連商品と評価

中国醸造(株)・田口生産森林組合・賀茂地方森林組合・(有)一場木工所・林業技術センター（すべて広島県）の「世界的に価値の高いクラフトジンの商品化を通じた里山との関係構築～ネズミサシの活用と持続的な育成～」が奨励賞（審査委員長賞）を受賞しました（写真1）。広島県産ボタニカル（香りづけ）にこだわったクラフトジンの商品化については、一昨年の当センター発表会でご紹介しましたが、今回は「ネズミサシの森」（写真2）の整備活動や材のボトルディスプレイなどへの活用の取り組み全体が高く評価されました。

ネズミサシ関連では、GRIND ARCHITECTS（広島県）と前田基貴（広島県）のHEXa（ヘキサ）（写真3）も特別賞（木のおもてなし賞）を受賞しました。加工に高度な技術を要する斬新で使いやすいデザインの枡で、ネズミサシの香りも楽しめるコンセプトの商品です。

このほか Laboratory Panacea（岡山県）・(有)一場木工所・HEREDIKOMIYAMA（広島県）のWOOD AQUA（ネズミサシアロマを使用した除菌スプレー）（写真4）も受賞しました。



写真1 奨励賞受賞 SNS 告知



写真2 ネズミサシの森の看板

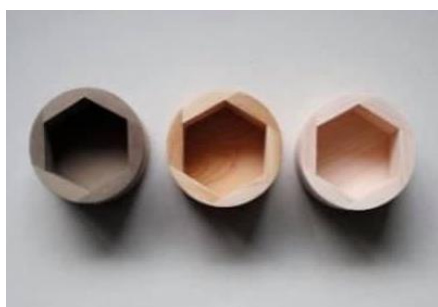


写真3 HEXa



写真4 WOOD AQUA

3 活用の方向

平成30年10月に「広島県県産木材利用促進条例」が制定され、幅広い分野における県産木材の利用を促進することが目指されています。ご紹介した事例がモデルとなり、他の樹種も含めたさらなる活用に向けた新たな取り組みが増えることが期待されます。